

# いま、10代留学

2014年1月27日(月)

公益財団法人 AFS日本協会  
理事・事務局長 高田祐三

1

## 内容

1. 高校生の海外留学
2. 意義とインパクト
3. 受験と留学
4. AFSの歴史と組織
5. 活躍する高校留学経験者
6. 海外留学生の受入れ

2

# 【高校生の海外留学】

3

## なぜ高校生なのか？

- 頭が柔軟  
⇒高い異文化吸収力
- 将来の道が定まっていない  
⇒体験が人生の選択に大きく影響
- 母語がほぼ確立。それをベースに 新しい言語を習得  
⇒語彙力、表現力のアップ(語学習得に適した時期)

大学生の留学⇒Academic留学

中学生の留学⇒外国人に？

高校生の留学⇒異文化の理解、母国文化との複合、昇華

4

## 交換留学と私費留学

	交換留学	私費留学
目的	海外で地域生活を体験し、異文化理解を深めること	海外の教育システムで、興味のある分野の知識や技術を伸ばすこと
留学先の国・地域	国の希望を出すことはできるが、配属地域や学校、家庭は選べない	選べる
滞在形態	現地の一般家庭にホームステイ(無償)、授業料免除で通学	寮滞在または現地の一般家庭にホームステイ(有償のケースが多い)
期間	1学年間(約10ヶ月)	選べる
費用	AFS61期(2014年派遣)の場合、プログラム参加費130万円+諸雑費	留学機関により異なるが、寮滞在で450万円以上、ホームステイで300万円以上、国際航空運賃が別途必要になることが多い

⇒私費留学が「学校に行くこと」を基本としているのに対して、交換留学では「現地の10代の生活を体験すること」を基本としている

5

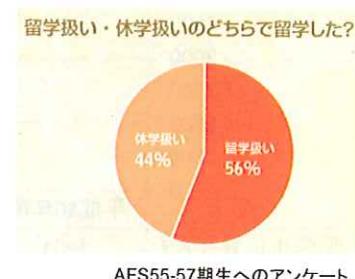
## 高校における留学の取扱い

留学扱い	外国の高校での履修を認定してもらい、遅れずに進級(卒業)する
休学扱い	帰国後、出発時の学年(1年下のクラス)に入る

### 留学扱いの場合の単位認定

学校教育法施行規則第93条第2項  
『校長は、留学することを許可された生徒について、外国の高等学校における履修を高等学校における履修とみなし、36単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる』

留学扱い・休学扱いのどちらで留学した?



AFS55-57期生へのアンケート

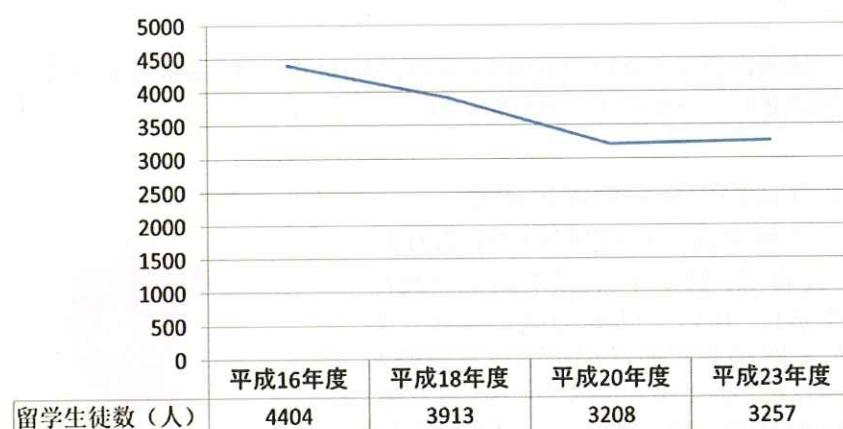
6

## 留学できる国

インド	インドネシア	タイ	中国	香港	フィリピン
マレーシア	オーストラリア	ニュージーランド	アイスランド	イタリア	オーストリア
オランダ(仮語、蘭語)	スイス(独語、仮語、伊語)	スウェーデン	スペイン	チェコ	デンマーク
ドイツ	ノルウェー	ハンガリー	フィンランド	フランス	ベルギー
ポルトガル	ロシア	アルゼンチン	エクアドル	コスタリカ	チリ
パナマ	パラグアイ	ブラジル	ボリビア	ホンジュラス	メキシコ
アメリカ	カナダ				AFS年間派遣プログラムの場合

7

## 留学生徒数の推移



3ヵ月以上の留学生と数。文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況について」

8

## 【意義とインパクト】

9

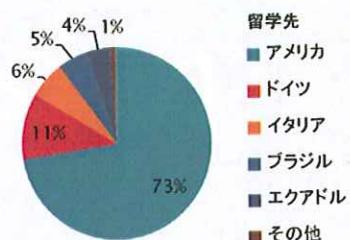
高校時代の海外留学のインパクトに関して、  
2005年にAFS国際本部の主催で国際教育交流の  
権威である米国のハマー教授(Mitchell R. Hammer,  
Ph.D)との協働で、次の調査研究が実施された

10

## 調査研究の概要

### ▼対象

- ・AFS年間留学生 1500人
- ・留学生の友人 600人  
オーストリア、ブラジル、コスタリカ、エクアドル、  
ドイツ、香港、イタリア、日本、アメリカ



### ▼調査回数

初回／留学直前 2回目／帰国直後 3回目／帰国6か月後

### ▼調査方法

アンケート方式

11

## 調査結果

①「留学経験者」は「留学をしなかった友人グループ」より、  
平均的に以下の点で長けている

- 異文化対応能力(intercultural competence)の向上
- 偏見、自民族中心主義(ethnocentrism)の減少
- 他の文化への興味の拡大
- 「私達対彼ら(us vs. them)」の対極観(polarization)の克服
- 文化の垣根を超えた共通の絆の発見

12

## ②留学経験者にみられた傾向

- 異なる文化を持つ人との接触に違和感・困難を覚えるくなる
- 他の国に関する知識が増える
- 国籍、民族の異なる人と友人になりやすくなる
- 自分自身、自國文化をより深く理解出来るようになった
- 両親を含め、今まで自分が持っていたもの・人に対する感謝の念が持てるようになった

## ③上記傾向は、帰国6ヶ月後の調査でも持続

- 留学体験が生涯の体験に！

13

## ④留学生は飛躍的に語学力を向上させている

- 留学生の47%  
滞在国の語学を流暢(fluent)に話せるように
- 留学生の12%  
滞在国の語学を母国語と同じレベルで話せるように
- 英語以外の外国語の習得が容易になった

## ⑤ハマー教授の結論

- 高校時代の外国留学は、青少年の中に異文化間の架け橋を築く役割として極めて重要
- 帰国生は、文化の垣根を越えてその後の人生を進んでいく能力を身に付ける

14

## 異文化理解と英語の関係

- 英語学習は異文化理解と並行して行われるべき
- 英語を習得するには、まずは日本語理解から  
“いい通訳は、どれくらい日本語ができるかに  
かかっている” ---鳥飼玖美子氏
- 国際語としての英語(伝える中身が大事)、異文化コミュニケーションを学ぶことが重要
- 自国を十分知ったうえで外国の文化に接したときに、話すべき言葉、話したい内容が自然と生まれてくる。それが語学の上達につながる

15

“There may be people who can see the world through only one window. However, I now have individuality within two cultures. When I go back to Japan, perhaps, I will feel uncomfortable toward my culture and feel culture shock. However, I think that this is the process of combining two cultures. And when two are united, and a new individuality is formed, is it not so that I can see and understand the world not from one window but from many standpoints ?”

(ある日本からのAFS留学生の留学中の体験記より)

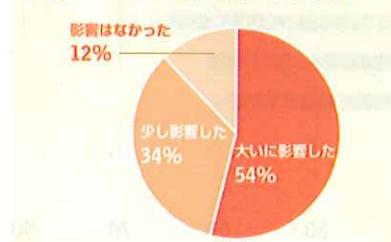
16

## 【受験と留学】

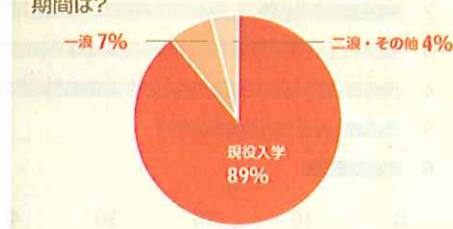
17

## 進路決定・進学までの期間

留学したことが進路決定に影響した?



進学（4年制大学・短大・専門学校）までの期間は？

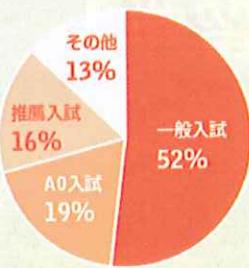


AFS55-57期生へのアンケート

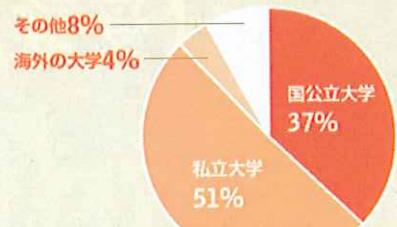
18

## 入試方法・進学先

入試方法は?



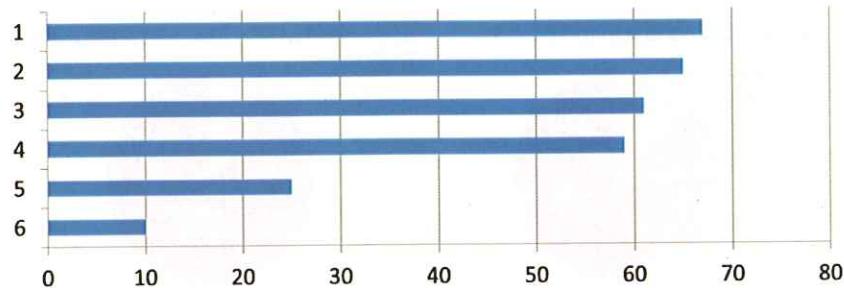
進学先



AFS55-57期生へのアンケート

19

## 大学入試に役立ったこと



1. 広い視野・グローバルな視点で物事を考えられるようになった
2. 語学力がついた
3. 人に語れる内容ができてアピールできるようになった
4. 自信がつき、積極的になった
5. 問題解決能力がついた
6. 集中力がついた

AFS55-57期生へのアンケート

20

## 【AFSの歴史と組織】

21

### AFSとは

- 世界50以上の国・地域にネットワークを持つ、非営利の国際教育交流団体（活動は世界100か国以上）
- 高校生を中心に毎年約13,000人の交流の機会を世界で提供
- 活動を支えるのは世界4万人以上の学生・社会人ボランティア。受入家庭や学校もすべて無償で協力をしている（関係者全員が異文化理解体験の「参加者」）



22

## AFSの歴史

- 第1次世界大戦勃発時、パリにいたアメリカの青年たちが、戦場から後方の病院へ傷病兵を輸送。第2次世界大戦でも活動を継続し、4,200人を越えるボランティアが120万人以上の傷病兵の救助に尽力した

**American Field Service** (米国野戦奉仕団) が起源

(2014年が100周年)

- 2回の大戦を経験したボランティアたちは、相互理解の大切さを痛感し、戦争を起こさないための仕組みとして、若者の留学制度を開始した



23

## AFSの誕生

- 戦争が始まってから傷病兵を救護するのではなく、戦争が起こらない平和な世の中をつくるために設立

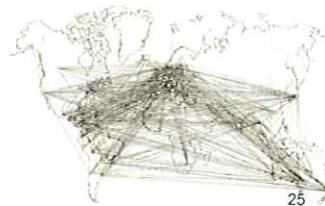
**REACTIVE → PROACTIVE**

- 対象に高校生を選択  
⇒異文化理解教育に最も適した時期

24

- 1947年／10カ国から52人の高校生がアメリカに渡る  
(敗戦国ドイツも含まれる)
- 1971年／アメリカ以外の国々と交換留学制度が  
スタート(マルチナショナル・プログラム)
- 1989年／若者に対する貢献で、国連からUnited Nations  
Testimonyを授与される。

2014年現在、加盟国は約50カ国、交流国は100カ国以上に。  
これまでに全世界で40万人以上が  
プログラムに参加



25

## 日本のAFS

- 1954年／日本の高校生8名(1期生)がアメリカに渡る
  - 1957年／アメリカの高校生9名を日本に受け入れる
  - 1980年／財団法人エイ・エフ・エス日本協会設立
  - 2004年／文部科学省より「国際交流功労者文部科学省  
大臣表彰」を受ける
  - 2011年／公益財団法人に移行
- 全国で74支部・約4300名(登録数)のボランティアが活動
- 2014年現在、日本→海外への派遣は毎年約500名、  
累計で18,000人以上。海外→日本への受け入れは  
毎年約400名、累計で約15,000人以上。

26

## 日本のAFS

### 【2012年実績】

	派遣	受入	合計
国	37カ国	50カ国	
長期	375	289	664
短期	107	770	877
合計	482	1,059	1,541

27

## AFS留学の選考試験

交換留学生として適性があるかどうかを確認するために  
選考試験を実施。応募には校長の推薦書が必要。

### 【種類と時期】

- ・一般選考A日程(6月)
- ・一般選考B日程(7月)
- ・一般選考C日程(10月)
- ・指定校推薦(4月~9月)
- ・追加募集(10月~)

### 【内容】

- ・筆記:英語
- ・筆記:一般教養(一般選考のみ)
- ・個人面接

28

## 【活躍する高校留学経験者】

29

- ・鳥飼玖美子(立教大学教授、元同時通訳)
- ・長井鞠子(サイマル・インターナショナル専属会議通訳)
- ・安藝清(英会話イーオン社長)
- ・佐藤良明(アメリカ文学者、NHK教育「リトルチャロ」初代監修)
- ・川口順子(元外務大臣)
- ・榎原英資(青山学院大学教授、元財務官「Mr. Yen」)
- ・塩崎恭久(衆議院議員、元官房長官)
- ・小野文恵(NHKアナウンサー)
- ・竹内まりや(歌手)
- ・星野康二(スタジオジブリ代表)
- ・ロバート・フェルドマン(モルガン・スタンレーMUFG証券)
- ・ダニエル・カール(タレント)など他多数

30

## 【海外高校生の受入れ】

31

### 地域社会に留学生を受入れる

- 地域の人々みんなが異文化体験ができる  
(地域の国際化)
- 外から見た日本を知ることができる。
- 海外が身近になり、視野が広がる。



32

## ホストファミリーになるには？

### ホストファミリーの条件

- 家庭の一員として留学生を受け入れられる
- 食費を含む諸生活費を負担できる  
(通学費、医療費、行事参加費はAFSが負担)

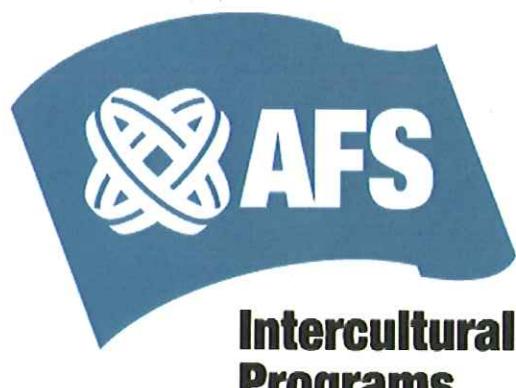
### AFSのサポート

- 一人ひとりに相談役(LP)
- 受入前オリエンテーション
- 定期的なコンタクトとフォロー



[AFS クロエ](#) [検索](#)

33



34